

第 64 回長崎大学経営協議会議事要録

1 日 時 平成 25 年 1 月 24 日 (木) 13 時 30 分～15 時 30 分

2 場 所 事務局第 1 会議室

3 議 事

(1) 平成 25 年度年度計画 (原案) について

理事 (総務・財務担当) から、平成 25 年度年度計画策定のため、本日提示する原案に対してご意見を頂き、最終的には 3 月 22 日 (金) 開催の本会議において審議願いたい旨の説明があった後、資料 3 に基づき、平成 25 年度年度計画 (原案) について、特に重点を置いているもの、特徴的なものを中心として、概ね次の事項について説明があった。

- ・ 本学が目指すグローバルな人材育成に必要な英語運用能力向上に資するために、個別学力試験で英語を課していない学部での「英語」又は「英語の学力を測るための入試科目」の導入を推進するとともに、入試での外部テスト (TOEFL や TOEIC 等) 導入のためのワーキンググループを立ち上げる。
- ・ 全学モジュール科目において、新たな達成度評価 (成績評価) 方法を導入する。また、学生自身のジェネリックスキルを測定する PROG テストを実施する。
- ・ 国際貢献・国際協力等において、グローバルな視点で国際リーダーとして活躍できる人材を育成するため、医歯薬学総合研究科に新たに博士課程教育リーディングプログラムによる「熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成コース」を開設する。
- ・ 東京事務所、福岡ラウンジに加え、学生の就職活動拠点を、新たに東京 (新宿・大崎)、大阪及び広島に開設し、就職支援を強化するとともに、活動拠点の評価を行い、改善する。
- ・ 包括連携協定を締結した福島県川内村に教育研究拠点を設置し、川内村の復興及び活性化を支援する。
- ・ 医歯薬学総合研究科熱帯医学修士課程と国際健康開発研究科を統合した熱帯医学・グローバルヘルス大学院 (長崎大学熱帯医学校) (仮称) 設置に向けて、カリキュラムを検討する。
- ・ 前例踏襲主義の排除及び類似施策の重複排除を徹底した予算配分を実施する。また、戦略的経費である学長裁量経費 (大学高度化推進経費) を活用して大学改革を加速させる。
- ・ ポイント制による教員の人件費管理制度を開始する。

なお、審議の過程において、概ね以下のような意見交換があった。

(◎は学外委員，○は大学側の発言)

- ◎ 福島県川内村の復興及び活性化を支援することは時代に敏感な反応であり，新聞記事を読んで大変感動した。
- 年度内に福島県川内村と包括連携協定を締結する予定である。
- 福島県の支援に関しては，震災直後のクライシス段階の危機管理に始まり，第2ステップとして福島県民の健康管理，第3ステップとして今回の包括連携協定の締結により医療面だけではなく，様々な連携を通して，福島県民の方々に震災前と同じ生活に戻って頂くことが最終目的であり，復興のモデルケースにしたい。
- ◎ 長崎大学熱帯医学校と大学院の違いは何であるのか。
- 医歯薬学総合研究科熱帯医学修士課程と国際健康開発研究科の2つの修士課程を統合し，博士課程教育リーディングプログラムと一体となり長崎大学熱帯医学校として，ロンドン熱帯医学校，リバプール熱帯医学校，ジョンズ・ホプキンス大学又はハーバード大学等と肩を並べるようになることを目指している。

(2) ポイント制による教育職員の人件費管理方式について

理事（人事・組織改革担当）から，資料4に基づき，教育職員の人件費削減に対応しつつ，組織の活性化及び人件費の適正な管理を可能とするため，従来のポスト管理方式から人件費管理を重視したポイント制による方式へ移行することについて説明があり，審議の結果，了承された。

なお，審議の過程において，概ね以下のような意見交換があった。

(◎は学外委員，○は大学側の発言)

- ◎ 学長が必要と認めた場合には学長裁量ポイントを一定期間貸与できるとあるが，貸与しても返すことが可能か疑問である。
- 不測の事態が生じたときには，その事態が解消するまでは学長裁量ポイントを貸与することもあり得る。
- ◎ 助教・助手の若い層が増えて，将来的に昇任等の人事が難しくなるのではないか。
- 理論的にはあり得ることだが，各部局長が責任を持って人事を行うものと考えてる。

(3) 病院における特殊勤務手当の見直しについて

理事（病院担当）から，資料5に基づき，平成24年度診療報酬改定を踏まえ，医師等のモチベーションの高揚及び薬剤師等の処遇改善を図るため，診療従事手当（特殊勤務手当）の手当額を見直すこと等について説明があり，審議の結果，了承された。

なお，審議の過程において，概ね以下のような意見交換があった。

(◎は学外委員，○は大学側の発言)

- ◎ 年間の給与費の増額はどのくらいか。
- 特殊勤務手当分で1億2千万円程度である。診療報酬改定による自然増収の半分程度を，特殊勤務手当の増額分に充てることを考えている。
- ◎ 収入が増えると支出も増えるが，収支差の評価はできないのか。
- 今回は診療従事手当の評価A及び評価Bのみ適用するが，診療科別の収支差並びに収益への貢献が明確になった段階で評価Sの適用を考えている。

(4) 平成 25 年度長崎大学の学内予算配分の基本方針について

理事（総務・財務担当）から、資料 6 に基づき、平成 25 年度学内予算配分の基本方針（案）について、①学長の強力なリーダーシップのもと、本学の基本的目標である「地球と人間の健康と安全」に資する世界的教育研究拠点となることを目指し、中期目標・中期計画を着実に実施、展開していくためには、重点的、戦略的な事業に対して機動的かつ弾力的な財源措置を行うこと、②学生納付金等の自己収入の十分な確保と併せ、競争的資金を含めた外部資金の獲得が極めて重要であり、それらの財源により教育研究活動に要する基本的な経費水準を維持すること、③類似施策の重複排除等の徹底、前例踏襲主義の排除及び④運営費交付金は人件費に優先的に充てること等の説明があり、審議の結果、了承された。

なお、審議の過程において、概ね以下のような意見交換があった。

（◎は学外委員、○は大学側の発言）

- ◎ 平均 7.8% の給与削減と運営費交付金の減額はどのような関係なのか。
- 運営費交付金は、当初から給与削減相当額が減額されて交付される。

(5) 平成 25 年度の授業料及び平成 26 年度入学者に係る検定料・入学料について

理事（教学担当）から、資料 7 に基づき、平成 25 年度に徴収する授業料等（平成 25 年度の授業料及び平成 26 年度入学者に係る検定料・入学料）を平成 24 年度に徴収した授業料等と同額（「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」に基づく標準額）とすることについて説明があり、審議の結果、了承された。

4 報告事項

(1) 平成 23 年度に係る業務の実績に関する評価の結果について

理事（総務・財務担当）から、資料 8 に基づき、国立大学法人評価委員会による「平成 23 年度に係る業務の実績に関する評価の結果」について、業務運営・財務内容等の状況については、①業務運営の改善及び効率化に関する目標、②財務内容の改善に関する目標及び③自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標の 3 目標とも「順調」との評価であったが、④その他業務運営に関する重要目標については、研究費の不適切な経理により「やや遅れている」との評価であった旨の説明と、本学の特徴的な取り組みとして取り上げられた事項について報告があった。

(2) 平成 24 年度長崎大学補正予算の概要について

理事（総務・財務担当）から、資料 9 に基づき、平成 24 年度補正予算（緊急経済対策）案の、設備整備事業及び施設整備費事項の内示について報告があった。

また、国家公務員の給与削減と同等の給与削減相当額を運営費交付金から減額されること、加えて平成 25 年度予算については当初予算から給与削減相当額を減額される旨の報告があった。

(3) 片淵地区女子学生宿舎（仮称）の建設について

理事（総務・財務担当）から、資料 10 に基づき、経済学部のテニスコートの一部を有効活用するため、民間資金を活用した女子学生宿舎の調達予定について報告があった。

5 協議事項

(1) 長崎大学の当面の懸案事項について

・理事（人事・組織改革担当）から、資料 11-1 に基づき、無期労働契約への転換、「雇止め法理」の法定化及び不合理な労働条件の禁止等の、改正労働契約法への本学の対応について説明があった。

引き続き学長から、教育職員の流動性、活性化のために導入している任期制について、改正労働契約法が大学の教員等の任期に関する法律の上位規定になることから、任期制の根拠が無くなり深刻な状況である旨の説明があった。

なお、協議の過程において、概ね以下のような意見交換があった。

（◎は学外委員，○は大学側の発言）

○ 民間企業はどのような状況なのか。

◎ 企業の指揮命令下ではなく、全ての業務を一括発注する請負化を進めている。

・理事（研究・社会貢献担当）から、資料 11-2 に基づき、医歯薬学総合研究科附属原爆後障害医療研究施設について、福島原発事故への対応やチェルノブイリ事故以降の国際貢献で果たしてきた役割の重要性を考慮し、本学として附置研究所に改組する決定をした旨の説明があった。

引き続き学長から、医歯薬学総合研究科附属原爆後障害医療研究施設を附置研究所に昇格させると同時に、全国共同利用・共同研究拠点に申請する準備を進めている旨の説明があった。

(以上)